熊本方言の相違性

熊本県立宇土高等学校

要旨
熊本は北東部、中部、南部に分かれており、なぜ地域ごとに方言が異なるのか調べたところ江戸時代の藩に影響されている可能性があることがわかった。対象となる熊本弁について祖父母に直接聞いたり、学校の図書室に所蔵してある熊本方言について書いてある本を調べた結果、熊本県の中でも方言に違いがあることがわかった。　考察として、結果の中から熊本方言の相違性について予想していたよりも熊本の過去の歴史と繋がっていており、熊本県は元々それぞれ別の藩主が国を収めていたということがわかった。

1. 目的

私達の班は、去年から方言に関する研究を行ってきた。前回の研究では、日本各地の方言について調べ共通性や相違性を調べてきたが、あまりにも範囲が大きすぎた。そこで今回は熊本方言に絞り、更に熊本方言を細かく調べるために、北部中部方言、東部方言、南部方言に分けてしらべ、相違性や共通性について調べる。

2. 方法

①まず熊本方言を詳しく知るために、自分たちの祖父母に直接聞いたり、電話や他の人と喋っているところからヒントとなりそうな単語をいくつか出す。
②次に、学校の図書室に所蔵してある熊本方言について書いてある本を使って熊本方言に関する由来、①で出てきた単語 の由来を熊本方言辞典などを使用して調べる。
③各自で調べたことを班で共有し合って相違性を見つけまとめる。

3. 結果

①対象となる熊本弁について自分たちの祖父母に直接聞いたり、学校の図書室に所蔵してある熊本方言について書いてある本を調べた結果、熊本県の中でも方言に違いがあることが分かった。
　まず最初に熊本県を大きく分けた理由として大きく分けると、北東部、中部、南部に分かれており、なぜ地域ごとに方言が異なるのか調べたところ江戸時代の藩に影響されている可能性があることがあった。現在の熊本県は江戸時代に熊本藩と人吉藩があり、熊本藩には支藩として宇土藩と肥後新田藩（後の高瀬藩）があった。
高瀬藩はこの３つの区分のうち県北部に該当し、人吉藩は県南部に該当する。
そして電話や会話の中から聞き取った単語、意味、使用されている単語は以下の通りになる。

	標準語の意味	使われる県
すっ、やる	する	熊本
きつか	きつい	熊本、鹿児島
ほんに	とても	熊本
せからしか	うるさい	関西から九州南部
やかましか	うるさい	熊本
なか	ない	熊本
なからんば	～でなければ	熊本
えだ	手、腕	鹿児島
つら	顔	鹿児島
がんぱ	頭	沖縄
ごちゃ	肩	佐賀
おんぼろ	がんだれ	水俣
ほんなこつ	ほんとに	熊本、福岡

聞き取った会話自体がそもそも年齢が上の方が多く、方も主に利用する年代が分かれているため、高年層が利用する方言が多数見られた。

また、江戸時代とは違い、近隣の県や日本各地の出身の方が熊本に引っ越してきたりするので、人によっては隣県の方言を使って話をしている方が多数見られた。

②北部方言は、逆接の接続助詞「ばってん」などの肥筑方言の要素が強く現れている。北部方言のうち、阿蘇郡・上益城郡北東部は、形容詞に「イ音便」を使い、豊日方言の要素がある。アクセントは東部・北東部は無アクセント、西部・南西部は二型式アクセントである。地域によってアクセントは異なっていたが、無アクセントの範囲は熊本県大部分を含んでおり、二型式アクセントとされる地域の各地でも無アクセント化が進んでいる。

4. 考察

結果の中から熊本方言の相違性について予想していたよりも熊本の過去の歴史と繋がっていており、熊本県は元々3つの藩に分離し、それぞれ別の藩主が国を収めていたということがわかった。そこから、なぜ藩ごとに話す言葉が違っていたのか、誰が藩独自の言葉をつくったのかという疑問が浮かんだ。このことは今回調べた中では、見つけることができなかったためさらに研究を深めていきたいと思う。

5. 感想

熊本だけの方言を調べることでどのようにして方言が伝わったのか、また、どのように方言が変化していったのかを詳しく知ることができ、去年のロジックと比べて満足のいく結果になったと思う。また、方言の歴史を知ることで熊本自体の歴史を知ることができました。まだ完全に調べることはできなかったが、今後、今回の調べた内容の疑問も見つけていきたい。
まだ中間発表の段階なので最終発表までに更に研究を深めて自分たちが納得行くことができるような研究にしていきたい。

6. 参考文献

倉岡幸吉「肥後方言集」
秋山正次、吉岡泰夫「暮らしに生きる熊本の方言」
秋山正次「肥後の方言」
工事郎　熊本弁コージ苑「ななな、ななななな？」